Innovation for Tomorrow

すべてに最高な軽をつくろう。

New MOVE 誕生

ムーヴ 3つの魅力
燃費の進化　基本性能の進化　安心の進化

Photo：カスタム RS 2WD。ボディカラーはタングステングレーメタリック〈S38〉。

燃費の進化
クラスNo.1※1の低燃費
（進化したイーステクノロジー 第2弾）
ダイハツ自慢のエコ技術「イーステクノロジー」。
効率を高める軽初※2の「サーモマネジメント」を加えてより進化。
29.0 km/ℓ JC08モード走行燃費※1
（カスタム RS および フロントシートリフト X"SA"、PNO仕様）

Photo：カスタム RS 2WD。ボディカラーはタングステングレーメタリック〈S38〉。

基本性能の進化
軽の走りを変える
「ファン＆リラックスドライブ コンセプト」
「走る」「曲がる」「止まる」性能を徹底的に高め、
一層の安心と快適さを実現。
気持ちよく走れる　すっきり曲がれる　安心して止まれる

Photo：カスタム RS 2WD。ボディカラーはタングステングレーメタリック〈S38〉。

安心の進化
もしもの事故を防ぐための軽初※2の先進テクノロジー
「スマートアシスト」搭載
低速域での追突や、ペダルの踏み間違えで起こる急発進による
衝突の回避、被害軽減をアシスト。4つの機能で安心感を大きく高めます。
[X"SA"、L"SA"、フロントシートリフト X"SA"、フロントシートリフト L"SA"、
カスタム X"Limited SA"、カスタム X"SA"に標準装備]
スマートアシスト
衝突回避支援システム

Photo：カスタム X"Limited SA" 2WD。ボディカラーはタングステングレーメタリック〈S38〉。

※1：全高1,550mm以上の軽自動車クラス。2012年12月現在。ダイハツ調べ。　※2：2012年12月現在。ダイハツ調べ。
※3：国土交通省審査値。燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、路面等）や運転方法（急発進、エアコン使用等）に応じて燃料消費率は異なります。
⚠ ■スマートアシストは、お客様の安全運転を前提としたシステムです。スマートアシストに頼った運転はおこなわず、安全運転を心がけてください。■スマートアシストにはいくつかの機能があります。■スマートアシストの低速域衝突回避支援ブレーキ機能は、約4～約30km/hで走行中、先行車との衝突の危険性が高まったとシステムが判断した場合に作動し、自動的に停止または減速して衝突回避や衝突被害の軽減を図ります。二輪車や歩行者、電柱、壁などにも作動する場合がありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。■ドライバーが回避操作をおこなった場合や、路面状態、気象等の条件によっては、システムが作動しない場合があります。■詳しくは販売会社にお問い合わせください。

もっと軽にできること。　DAIHATSU

TOYO TIRES
driven to perform

この国には、
世界を魅了する技がある。

ナノバランステクノロジーが生んだ
次世代低燃費タイヤ
NANOENERGY

精緻な技巧、洗練された美しさ、清楚なたたずまい。
かたくなに、ただ一つのことを深め、極める。

この国には、連綿と受け継がれてきたモノづくりへの情熱が在る。

TOYO TIRESにも、同じ情熱が息づいています。
独自のナノバランステクノロジーが生み出した、
低燃費タイヤ「ナノエナジー」。
タイヤの素材を分子レベルから見つめ直すことで、
最高グレードの環境性能を実現しました。
10億分の1の世界でタイヤの技術を深め、極める。

ナノの力でタイヤの未来を変えていく、
TOYO TIRESです。

TOYO TIRES
TOYO TIRE & RUBBER CO.,LTD. | http://toyotires.jp　月に一度は空気圧の点検を！
NANOENERGYは
2012年度 グッドデザイン賞を受賞
GOOD DESIGN

関西発 エネルギー革新

エコカーのゆくえ

Energy Innovation 1

ハイブリッド車（HV）や電気自動車（EV）と並び、低燃費な軽自動車が「第3のエコカー」として、環境対応車の地位を確立した。コンベンショナル（伝統的）な内燃機関のエネルギー損失低減や、車体軽量化などの地道な技術改善と、アイドリングストップ機能などの新技術融合で、HVに迫る低燃費を実現。毎月発表される新車販売ランキングのトップ10は、HVと軽自動車でほぼ埋め尽くされる。

エコカー市場は不動の人気を誇るトヨタ自動車のHV「プリウス」と同「アクア」などが、今後も牽引役として引っ張る構図が予測される。また車のコモディティー化、家族構成の変化、世帯所得減少といった消費者環境の変化と、低燃費技術の発達が軽自動車の人気を底支え。地方で高い普及率を誇る軽は、都市部でも着実にシェアを伸ばし、関西でも二府四県すべてで軽保有比率が年々増加傾向。12年には大阪も3割の大台にのった。一方、航続距離や充電インフラなどで課題を抱えるEV。2人乗りの超小型EVなどへの期待は聞かれるも厳しい状況だ。

「第3のエコカー」として軽自動車＝低燃費、低価格のイメージを復権させたのが、関西地盤のダイハツ工業。11年秋発売の軽自動車「ミライース」はガソリン1リットル30キロメートルの低燃費と、80万円を切る低価格で市場を驚かせ、競合他社も同車をベンチマークに燃費競争が過熱する。だが、サイズの小さい車にシフトするダウンサイジングの流れも加速しており、車に要求される仕様は燃費だけに留まらない。ホンダの居住性に優れた同「NBOX」、走りを重視した同「NONE」のヒットがそれを裏付けている。

ダイハツはホンダという好敵手出現後の12年末に、マイナーチェンジ（一部改良）のタイミングでは異例の大幅改良を施した旗艦車種「ムーヴ」を投入した。全高1550ミリメートル以上の軽乗用車クラスでトップの低燃費にこだわったほか、軽で初めて衝突回避支援システムを採用。足回りの徹底追求などで、小型車並みの操縦安定性と乗り心地も備えている。

市民の足として軽に求められるのは低燃費、低価格に留まらない。普通車との比較で常に指摘される安全性の向上が、「第3のエコカー」の付加価値を高めている。

低燃費タイヤ

路面と接触するタイヤは自動車の燃費性能に大きな影響を与える。技術力が求められる「低燃費タイヤ」は、日系メーカーが先導する形で市場は拡大傾向だ。世界各地で進むタイヤに対する環境規制も、低燃費タイヤの普及を援護射撃している。関西勢では大阪の本社機能を強化した東洋ゴム工業が、同タイヤの最上位モデルを業界に先駆けて12年に全国発売するなど、開発競争も激化している。

そんな中、日本能率協会総合研究所が「第4回低燃費タイヤに関する実態調査」を実施。低燃費タイヤ購入経験率が大幅にアップし、理由として「低燃費性能」と「価格の手頃さ」を重視しているとの結果を2月にまとめている。

同調査はオンライン式アンケートで、自家用乗用車を家庭に持つ全国の18歳以上の男女1万3790人から回答を得た。

調査によると、「低燃費タイヤの内容・条件を知っている」と、「名前のみを知っている」と答えた8950人の同タイヤ購入率は39・8％。同12％だった12年の調査より大きく上昇した。また、購入理由は「低燃費性能が優れている」が46・4％、「価格が手ごろ」が41・2％となっている。

ただ、「低燃費タイヤ」購入意向理由は、「燃費がよく経済的」が93・8％と前回同様に高く、「環境に優しそう」は18％、「環境に優しい商品を普段から選んでいる」は11％で前回より大きく落ち込み、環境意識の変化がうかがえる。また、非購入理由では「価格が高そう」や「よくわからない」の割合が多い。「低燃費タイヤ」の普及拡大には、これまで以上に分かりやすい導入メリットの説明がメーカーに求められそうだ。

安全を極める。

NORD-LOCK®
Bolt securing systems

ノルトロック社の
新製品「Xシリーズ」ワッシャーが
ボルト締結を進化させる。

世界トップレベルの妥協なき安全を追求してきた
ノルトロック社だけが可能にする、
ボルト締結の革新的技術。
緩まないボルト締結だからこそ、解決できる力がある。

Nord-Lock X series
ボルト締結で
悩まされてきた相手材も
ノルトロック Xシリーズ
ワッシャーが解決。

柔らかい金属　塗装面　振動と変動荷重
ガスケットの締結　複数材の締結　コンポジット・ポリマー

資料請求・お問い合せは　株式会社ノルトロックジャパン
本社｜〒550-0011 大阪市西区阿波座1丁目15番19号　TEL：06-6535-1069　FAX：06-6535-4461
東京｜〒140-0013 東京都品川区南大井3丁目22番7号-2F　TEL：03-6423-1069　FAX：03-6423-1072
http://www.nord-lock.com　ノルトロック　検索